

○食料・資源経済学研究室は、農村資源管理手法の改善（資源系）と食料消費における課題解決（フード系）という2つの大テーマを基礎とした実証分析を行い、農業のさらなる持続的な発展を実現するための政策・制度設計に関する研究を進めています。

○人口減少・少子高齢化や環境問題に対応しながら、現代の農業を発展させるには、次の3つの部門における革新が必要とされています。

- ・農村資源（農地・水等）の維持管理
- ・圃場における栽培管理
- ・収穫後の調製・加工・流通・販売活動

3部門における実態を調査し、計量的分析を通じた検証から課題を解明し、解決のためのイノベーションのあり方を検討しています。

○これまでの、そしてこれからの農業のあり方を左右するのは、消費者・市民の意識と行動です。そのための様々な観点からの食料消費行動分析を実施してきました。

○研究・活動実績（抜粋）

【制度分析】

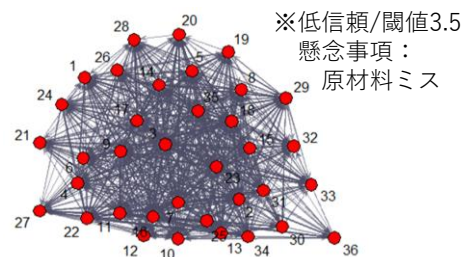
- ・食の安全政策の検討・制度設計（HACCP制度化、オリパラ2020食材調達基準、GAPガイドライン）
- ・農業政策等の検証・検討（食料・農業・農村政策審議会・日本農林規格調査会）

【実証分析】

- ・農業土地資本形成と生産性向上に関する生産関数分析
- ・食の信頼に関する消費者の意識調査（懸念の伝播構造の分析）
- ・消費者・市民の食品選択時の関心に係るアイトラッキング分析
- ・食選択の二元論モデル開発のためのWEBアンケート調査
- ・農業用水利用実態に関する地理情報システム（GIS）分析



小売店舗における消費者視点のアイトラッキング分析  
（ヒートマッピング結果）



食品安全性に関する懸念の伝播構造の  
検証結果（有向グラフ分析）